

現代文：2年生現代文「こころ」

荻原 万紀子

授業の目的と概要

2年生現代文領域の定番教材である『こころ』は、教科書掲載部分だけでは作品そのものに迫ることは困難であると考えます。そのため、夏休み宿題として『こころ』全編を読んでおくことを課し、全編を通しての授業を行った。その際、生徒たち自身に主体的に読み取らせるため、グループ学習を活用している。今年度の2年生は、入学時より、国語の力ことに論理的な思考力・表現力が不足しているように感じられたため、1年時から「自分の意見には理由を述べる」ことを意識して指導してきた。今回も、文学作品とはいえ読解が恣意的にならないように、読解の根拠を明示する、いわば小説を論理的に読むことも目標としている。

グループ学習に際しては、常に班長（司会）と書記を決めさせ、通常はその二者以外の生徒に発表を行わせる、という役割分担をさせているが、本教材では3回のグループ学習が入るので、その都度班長と書記を決める、発表はそのどちらかが行う、という形態を取った。グループ学習は単純に座席で6つの班を作るため1班の生徒数が6～7名となり、大概の生徒が班長か書記のどちらかを経験することになる。殆どの班が発表は班長が行っていた。発表の力を育成することも付随的ながら目的の一つである。グループ学習の注意としては、班内の意見を一つにまとめる必要はないこと、また発表時には根拠を明らかにすることを伝えている。

また、夏休みの宿題として簡単な感想用紙を提出させ、その内容はプリントにして配布している。宿題未提出者は、この時点で2年生全3クラス中2名であるが、本授業の菊組は全員が提出している（2学期末までには全員が提出したが、これは初めてのことである）。

なお、授業の全体については「夏目漱石『こころ』の授業（2年生現代文）について」（本校研究紀要第47号2001年）に報告しているので、参照されたい。今回はそれを一部改訂して行っている。特に、最初に私自身の考えを一部示しておいた点が異なる。文庫本のカバーや国語便覧・文学史テキストなどに、主題にかかわって「エゴイズム」「我執」ということばがしばしば載っており、生徒が授業や通読の前にそのような思い込みを抱きがちであるため、「それは否定しないがそれだけか？」という疑問を提示した。また、「そのような疑問提起をする以上、私自身はそうは思っていない。そういう方向に授業を持っていかうとしているので、いつでも抵抗してほしい」と伝えておいた。

対象

2年菊組生徒39名（必修2単位）

本時の位置づけ

全体計画11時間中、6・7時間目に相当し、「先生と「私」の関係」について考える。

1時間目にグループ学習、2時間目にその内容発表およびクラス全体の理解、という流れを予定していた（授業計画参照）。本時を効率よく進めるために、前時に宿題として、上記プリントに紹介してある生徒の疑問——先生が「私は淋しい人間です。……ことによると貴方も淋しい人間じゃないですか」と言うのに対して「私」が「ちっとも淋しくありません」と答える（「先生と私」七）場面——を取り上げ、その後「私」が淋しさを感じる場面があるので探してくるよう課しておいた。全員が探してくることは望めないが、この場面を軸として、先生が「私」の人生の先行者であること、そして、「私」の無意識の部分を意識化する存在であることを理解させるのが比較的容易になると考えたためである。

授業の流れ

1時間目は、予定通り私が、先生・「私」等、本作品の主要登場人物の匿名性とその持つ意味（一般性）について話した後、グループ学習に入った。グループ学習を行う時は、「行き詰まったり煮詰まったりしたら私を呼んで」と最初に言うておき、基本的には生徒に任せている。本時も、場所を移動しながら各班の様子を見ているようにし、質問をされたり声をかけられたりした時以外は、口をはさまなかった。宿題の答えを見つけてきて、淋しさについて話し合っている班があることは確認しておいた。生徒はお客様の目を意識してか、いつも以上に熱心に話し合いを行っていた。

1時間目終了時点で話し合いを完了していた班は1つもなく、殆どの班が休み時間中も話し合いを続けていたが、「途中でもいいから」と言って切らせた。書記が記入した話し合いの内容は、休み時間中にコピーを取った後、返却した。

2時間目に各班の発表を行わせた。通常30～35分で6班すべて終了するのだが、今回、予定時間をはるかに越えて、それだけで終業のチャイムが鳴ってしまった。理由は、1つの班の発表が終わると他の生徒からの質問を受けさせるのだが、そこで時間を取られすぎたことと、発表生徒が自班の話し合った内容を漏れなく発表しようとして時間をかけすぎたことが挙げられる。10分以上授業を延長して、私がまとめつつクラス全体の理解を共通のものにした。すなわち、多少の読みの違いはあるものの、先生が「私」にとって尊敬の対象以上に精神的な父親とも言える存在であること、二人をつなぐものが孤独・淋しさであること、しかし「私」は先生と世代を異にすること、一方先生は、当初「私」を警戒したものの次第に心を開いていき、「私」の真面目さに動かされて遺書の形で過去を語るにいたること、「私」は、自分の過去を役立ててほしいという先生自身の願いを託す存在になること、はクラス全体で共通していることを確認した。予定ではこの後、先生が遺書を書き始めた時は、「私」が、自分の過去を語る唯一の対象であったにもかかわらず、遺書を終える段階では、過去を役立ててほしい対象が妻以

外のすべての人に広がっていること、すなわち、先生が最後に世の中の人々とのつながり（つながる意志）を持ち得たことに気づかせて授業を終える予定であったが、この部分は次時に持ち越さざるを得なかった。

反省

計画通りに授業を進められなかったことに尽きる。公開教育研究会での生徒の頑張りを過小評価したためであろう。話し合いの記録用紙は私がコピーを持っているため、私から、生徒が言いたそうなことを導いたり言葉を補足したりして時間の短縮を図ったのだが、それでも足りなかった。後になれば、他班生徒の質問は最後に（時間があれば）まとめてするべきだった、発表時間を定めておくべきだった、などということは挙げられるが、通常の授業では必要なかったことなので、やはり今回の特殊事情である。

私としては、1時間目のグループ学習が、ご参加の先生方にとって退屈ではないかと思い、そこまでは前時にすませて発表からご覧いただいた方がよいかもしれないという点で迷ったのだが、生徒たちの話し合いはありのままお目にかけての方がよいと判断して、今回の形にした。研究協議の席上、話し合いの様子を見られてよかったというお声があり、その判断自体は間違っていなかったと思う。ただ、結果的に予定を消化できなかつたため、生徒の動きで左右される要素を入れて公開授業を行う場合には、相応の覚悟と二、三段階構えの予定（時間がオーバーしそうな時どうするか）が必要であると痛感した。いずれにしても、口頭発表を簡潔に行うための指導は必要であると考え。別の時に行った詩・短歌・俳句の発表も、どのクラスでも制限時間3分を守れた生徒の方が少なく、特にこのクラスは、全員が延長していた。勿論、発表ができないというよりずっとよいのだが、調べてきたことや伝えたいことを全部言う、という発表は改めさせる必要がある。音声言語学習面の課題として、今後の指導法を考えていきたい。

研究協議

席上、深い読解がなされていること、生徒の発表が堂々としており意見の理由もきちんと述べている（述べようとしている）ことへの評価をいただいた。『こころ』等の長編小説全体を授業で扱うことの必要性和困難性が多くの学校に共通しており、他作品も含めて文学教材の扱いの工夫についての報告をいただいた。

また、最近の生徒の読解力・表現力不足に対する問題意識も共通しており、その原因や指導法についても意見交換がなされた。読書ノートの有効利用についても各校の取組み例があり、来年度導入を予定している本校にとって有益な情報をいただくことができた。

現代文 夏目漱石『こころ』

授業者 荻原万紀子

日時 2003年11月14日（金）第1・2時限

対象 2年菊組（「現代文」必修2単位）39名

教材 夏目漱石「こころ」

指導目標

- 1 長編小説を主体的かつ論理的に読解する。
 - ・自分自身の問題意識を大切にして作品を読解する。
 - ・作品を読み込み、読解に際しては根拠を明示できるようにする。
 - ・友人との意見交換を通して理解を深める。
- 2 作品を鑑賞する。
 - ・作品を「人間を知る」手がかりとし、自分の人生を生きる「参考に」する。（引用「先生と遺書」56）
 - ・作者に関する理解を深め、読書の幅を広げる。

<本時について…全体指導計画の第6・7時限>

指導目標

- 1 先生と「私」の関係について、話し合いを通して考えさせる。
- 2 1について、グループで話し合った内容を発表させることにより、クラス全体の理解を高める。
- 3 作者のメッセージに迫らせる。

指導計画

時 限	分	学 習 内 容	備 考
1	10	1 教師の説明を聞く。	(前時に宿題※を出してあるが、どの程度やってきているかは疑問) 1 主要登場人物の名前がないことについて、その意味を考えさせ、さらに先生の先生たる所以を理解させる。 2 考えるべきポイントを示す。 ・「私」にとっての先生 「私」は先生のどういう点に惹かれたのか。 cf 父親との対比 ・先生にとっての「私」 先生は「私」をどう思い(受け止め)、遺書を送ったのか。 ・(時間があれば)「私」は先生の遺書をどう受け止めたのか。 3 本時の司会と書記を決めさせる。 4 グループ学習の様子を見ながら、適宜指針を与える。
	40	2 グループ学習を行う。 話し合いの内容を書記は記録して提出する。	
2	5	1 記録用紙の返却を受けて発表の準備をする。	1 各グループの発表内容を要約して板書する。 2 発表内容に関して疑問・意見を交換させる。 3 全グループの話し合い結果をもとにして、先生と「私」の関係を理解させる。 (宿題※はここで使う予定だが、話し合い時に考えに入れている班があれば嬉しい) 遺書を書いているうちに「先生」の考えが変わってきたことも読み取らせたい。
	30	2 グループごとに話し合いの内容を発表する。	
	15	3 教師のまとめを聞く。	

※宿題

先生：「私は淋しい人間です」→私：「私はちっとも淋しくありません」(先生と私7…プリント「疑問に思ったこと…」2枚目1行目)に対応するところ(「私」が淋しいと思っているところ)を探してくる。

全体指導計画

時限	指導目標	学習内容	備考
1	1 お嬢さんが好きだったのは先生であることを理解させる。 2 先生が奥さんにKとこのことを話さない理由を理解させる。	1 ①プリントを読み、友人の考えとその根拠を理解する。 ②自分の判断を持つ。 2 教師の説明を聞く。	1 ・夏休み宿題を返却し、これをまとめたプリント「お嬢さんが好きだったのは…」を配布する。 ・小説の読み方について注意する（書いてあることは素直に読む）。 2 2 限目配布プリントの疑問点に対応する。
2	1 本作品の読解にあたって重点的に考えざるべき点を明らかにさせる。 2 登場人物の設定の意味について理解させる。 3 作品の構成について理解させる。	1 プリントを読み、問題点を理解する。 2 教師の説明を聞く。	1 ・上記プリント「疑問に思ったこと・考えたこと」を配布する。 ・今後、グループ学習を中心にしていくことを知らせる。 2 先生が働かなくてすむことなど。 3 「ここら」という題についても説明する。
3	1 構成等について理解を深めさせる。 2 Kの自殺の理由について話し合いを通して考えさせる。	1 教師の説明を聞く。 2 グループ学習を行う。本日の話し合いの内容を書記は記録して提出する。	1 主人公が途中で交代することについて、他作品を挙げながら説明する。 2 ・考えるべきポイントを示す。 ・座席にしたがってグループを作らせ、司会・書記を決めさせる。
4	1 Kの自殺の理由について話し合いを通して考えさせる。	1 ①前時の記録用紙を受け取る。 ②教師の説明を聞く。 ③グループ学習を続ける。 ④記録用紙を提出する。	1 ①前時に提出された記録用紙に不足の点を記入して返却する。 ②・当時の友情と恋愛について「それから」の紹介をしながら説明する（先生のKに対する負い目を理解させる）。 ・浄土真宗と他宗の違い（妻帯に関して）を説明する。 ③グループ学習の様子を見ながら、適宜指針を与える。
5	1 Kの自殺の理由について、グループの意見を発表させ、クラス全体の理解を図る。	1 グループごとに話し合いの内容を発表する。 2 教師のまとめを聞く。	1 各グループの発表内容を要約して板書する。 2 発表内容に関して疑問・意見を交換させる。 3 全グループの話し合い結果をもとにして、Kの自殺の理由を理解させる。
6	1 本作品の一般性について理解させる。 2 先生と「私」の関係について話し合いを通して考えさせる。	1 教師の説明を聞く。 2 グループ学習を行う。話し合いの内容を書記は記録して提出する。	1 本作品の匿名性について、その意味を考えさせ、さらに先生の先生たる所以を理解させる。 2 本時の司会と書記を決めさせる。

7	1 先生と「私」の関係について、グループの意見を發表させ、クラス全体の理解を図る。	1 グループごとに話し合いの内容を發表する。 2 教師のまとめを聞く。	1 各グループの發表内容を要約して板書する。 2 發表内容に関して疑問・意見を交換させる。 3 全グループの話し合い結果をもとにして、先生と「私」の関係を理解させる。 遺書を書いているうちに「先生」の考えが変わってきたことも読み取らせたい。
8	1 殉死について理解させる。 2 先生の自殺の理由について話し合いを通して考えさせる。	1 教師の説明を聞く。 2 グループ学習を行う。 話し合いの内容を書記は記録して提出する。	1 「自由と独立と己とに満ちた現代」(「先生と私」十四)にはない価値観を理解させる。森鷗外にも言及する。 2 本時の司会と書記を決めさせる。
9	1 先生の自殺の理由について話し合いを通して考えさせる。	1 前時の記録用紙を受け取る。 2 教師の説明を聞く。 3 グループ学習を続ける。 記録用紙を提出する。	1 前時に提出された記録用紙に不足の点を記入して返却する。 2 最初に登場する西洋人・先生宅の洋書と先生の「先祖から譲られた迷信の塊」(「先生と遺書」七) 3 グループ学習の様子を見ながら、適宜指針を与える。
10	1 先生の自殺と「私」の関係について、グループの意見を發表させ、クラス全体の理解を図る。	1 グループごとに話し合いの内容を發表する。 2 教師のまとめを聞く。	1 各グループの發表内容を要約して板書する。 2 發表内容に関して疑問・意見を交換させる。 3 全グループの話し合い結果をもとにして、先生がどのような思いで生きてきたか、なぜあの時期に死を選んだかを理解させる。
11	1 本作品の主題を考えさせる。 2 作者および人間・人生について考えさせる。	1 これまでに学習したことを踏まえて主題を考えてノートにまとめ。 2 読み取った主題を發表する。 3 教師の説明を聞く。	1 複数の生徒に發表させ、要点を板書する。 2 板書をもとに、發表しなかった生徒たちの意見を尋ね、クラス全体の理解を図る。 3 作者の生き方等を図り、人間のエゴイズム・孤独と、それを越えるものへの志向を理解させる。

評価

2 学期末テストにおいて論述試験を行う (1,200~1,600字。50分。持ち込み自由)。